

雁塔聖教序に関する記録

編集および著者 荒金 大琳

- ・ 雁塔聖教序の拡大観察の記録
- ・ 雁塔聖教序に関する論文の記録



雁塔聖教序に関する記録

編集および著者

荒金 大琳

・ 雁塔聖教序の拡大観察の記録

・ 雁塔聖教序に関する論文の記録

<p>8 しと波磔の比較観察</p>	<p>9 さんずいの文字の比較観察</p>	<p>10 特別にのびやかに感じる線の観察 — なぞにつつまれる線 —</p>	<p>11 横線とたて線に修正を加えようとした後の観察</p>	<p>12 石の摩滅部分の文字の観察</p>	<p>13 おさえない横線の観察 — 行意の表現を中心に —</p>	<p>14 角の観察 (多種にわたる行意が感じられる表現)</p>	<p>15 刻り残しのようにみえる部分の観察 (二回書いた線をそのままの状態にしたために生まれた表現)</p>	<p>雁塔聖教序に関する論文の記録</p>
<p>序 序記</p>	<p>序 序記</p>	<p>序 序記</p>	<p>序 序記</p>	<p>序 序記</p>	<p>序 序記</p>	<p>序 序記</p>	<p>序 序記</p>	<p>序 序記</p>
<p>P 152 } 158</p>	<p>P 164 } 159</p>	<p>P 176 } 174</p>	<p>P 193 } 189</p>	<p>P 212 } 202</p>	<p>P 220 } 214</p>	<p>P 248 } 235</p>	<p>P 281 } 274</p>	<p>P 292 } 355</p>

はじめに

別府大学教授 荒金大琳

ペールに包まれた碑

一九九七年と一九九八年の二度の訪中は私にとって忘れることのないものとなりました。西安の旅は一九七八年にさかのぼります。初めて雁塔聖教序を見学しました。左右両碑の原石の前には鉄格子があり、暗くて写真はとれませんでした。次の見学の時には碑の上に拓本が貼られ直接碑面を見ることは出来ません。どうして”の気持ちで、原石の見学許可の申請を行い続けて約二〇年。大分県民対外友好協会と上海市人民対外友好協会・西安市人民対外友好協会のお力添えで、一九九七年と一九九八年の二度、西安市雁塔文物保管所から特別の見学許可を頂きました。拓本と鉄格子を取り除かれ、ペールに包まれた序碑と序記碑の碑面に息がかかっている程の距離で見学と接写が出来ました。拡大した写真を基に調査した結果を主体に、一文字の中の修正線の数の調査や、書体の移行、即ち当時の書体に対する意識と褚遂良の心理的变化を中心にまとめてみました。



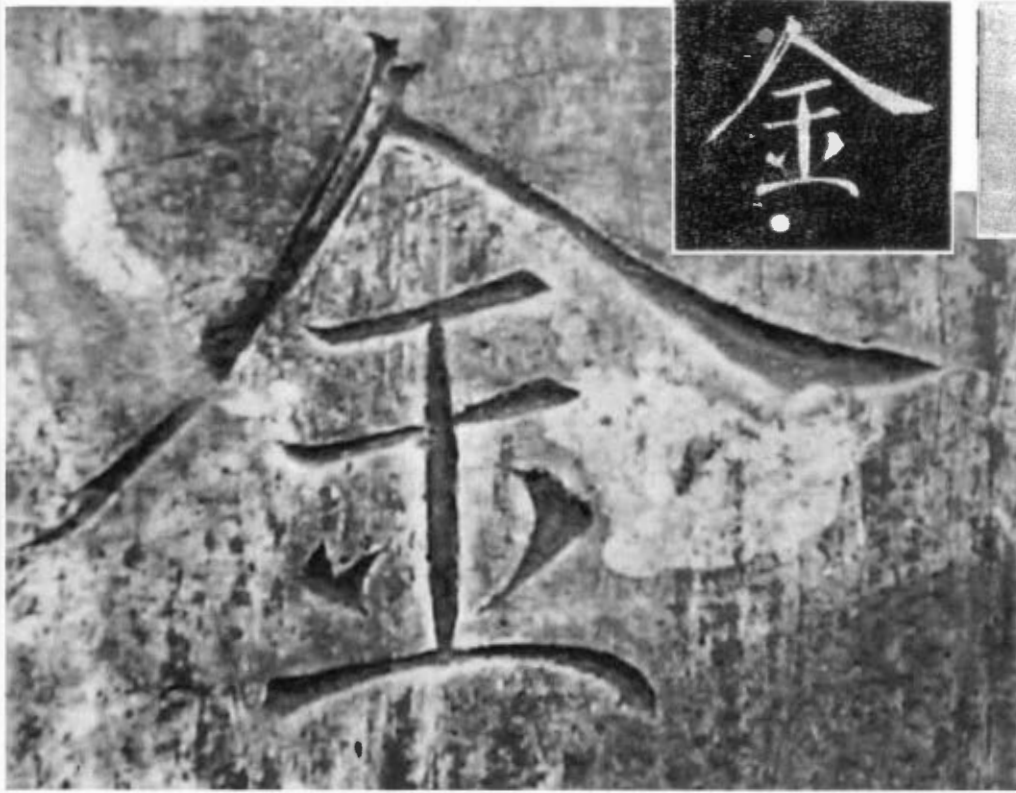
序記152

永



1 一点から生ずる二本の線の観察

(入筆も終筆も二つの線を引く意志が異なっているもの)



序記562

金

運動があきらかに異なる二重線



入筆は異なっている二重線



(比較)

序記575

輕 (輕)





開いた筆の線には見えない。
同じ入筆より引かれている三つの線



弘

序記476



拓本ではキズに見える。
同じ入筆より引かれている二本の線



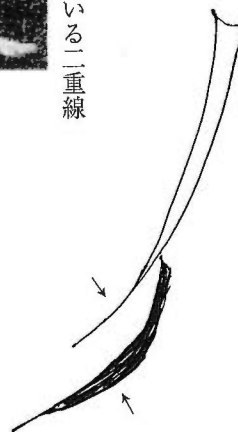
智

序記505

終筆の運動方向が異なっている



入筆は異なっている二重線



序記350

優



同じ入筆より引かれなおしている二重線



一つはとめて、一つははらっている終筆の運動方向が異なっている



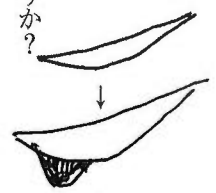
序記388

室



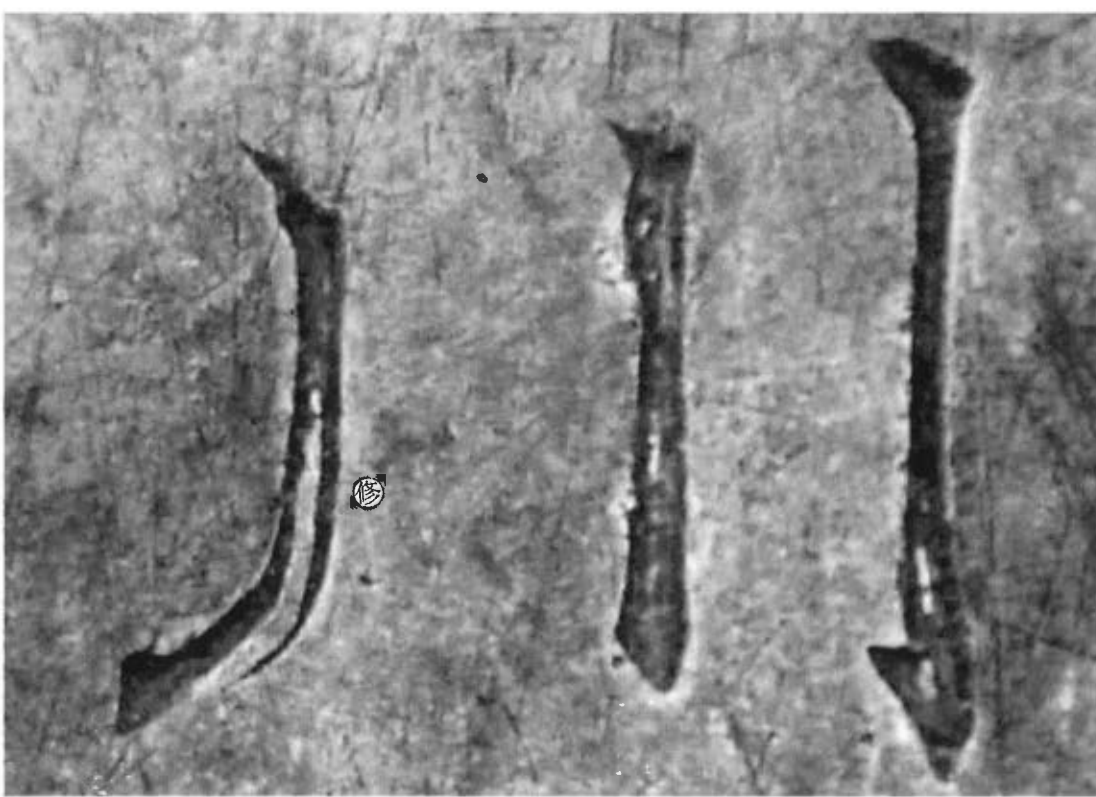
序記223

どちらの線が初筆点だったのだろうか？
他に入筆の問題が観察できる。

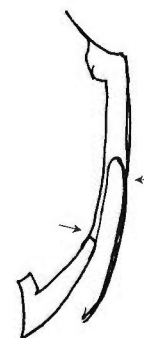


福

一本の線を引いた時に生まれたものではない



序記273

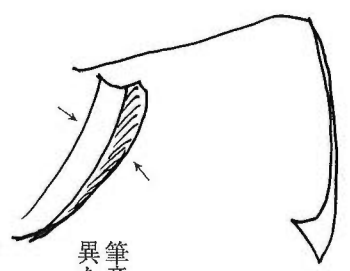


不自然な処は二つある

川

一点から生ずる二本の線の観察

刻法のあ
とが見字
出来る



筆意がまったく
異なる二本の線

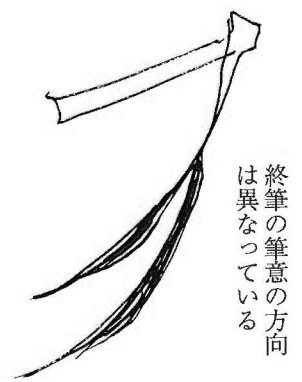
序記4

帝

どちらの線が楮遂良が残したかった線だろうか？



同じ入筆より引かれて
いる二重線



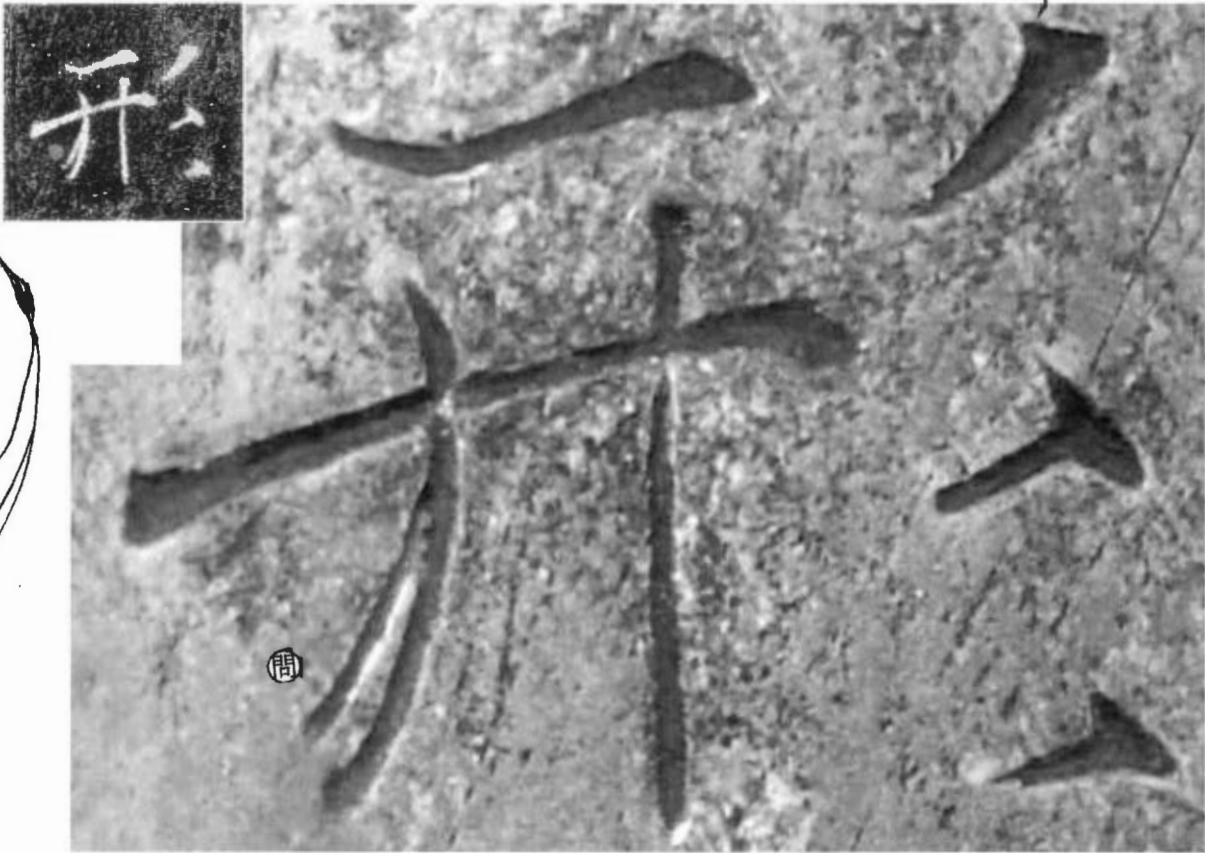
終筆の筆意の方向
は異なっている

序記152

永

序記 →

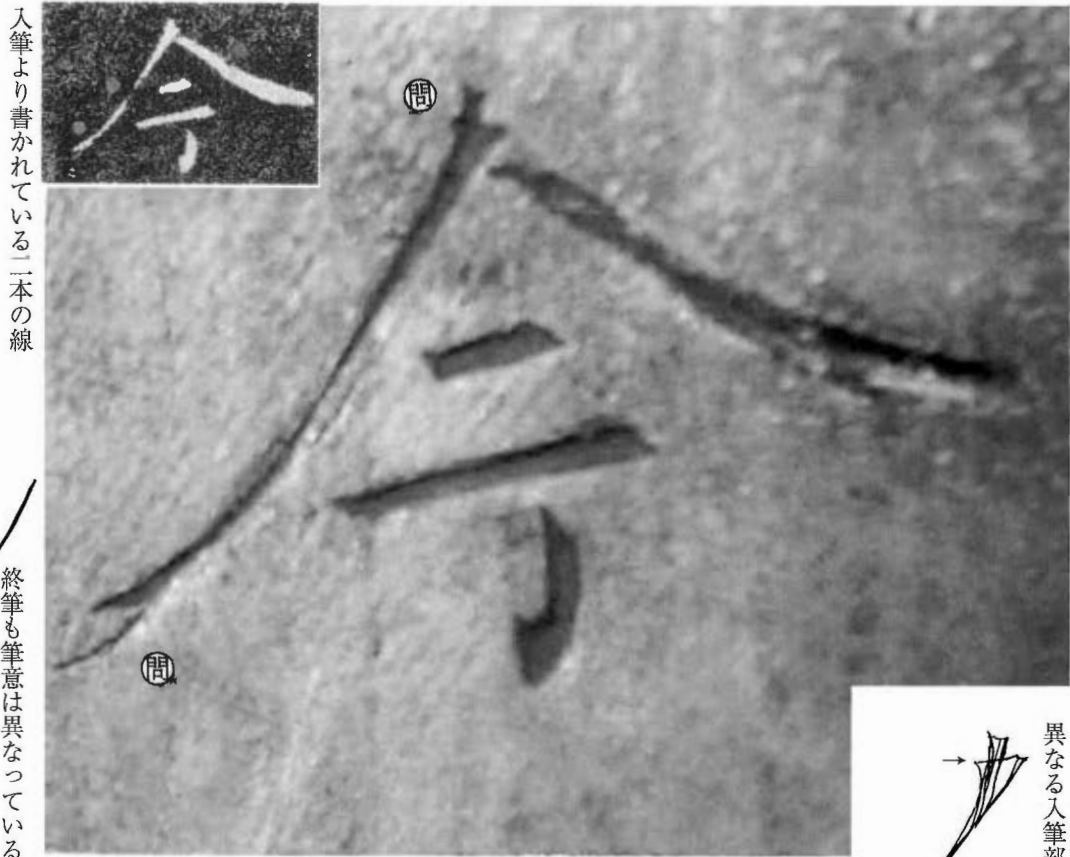
行意を楷意に改めた結果にのこってしまった線



形

序29

二重の左ばらい線の観察



入筆より書かれている二本の線

終筆も筆意は異なっている

今 (今)

序171

異なる入筆部分

一点から生ずる二本の線の観察

序 ←